

経 済 学 科

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
政治経済学 I ( Political Economy I )					政治経済学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	月 3	海 大 汎 (非常勤講師) E-mail 内線
授業の概要	本講義では、「政治経済学」の中級編として、資本主義経済の仕組みをより深く理解することを目的とする。本講義の構成は大きく分けて、「流通論」、「生産論」、「機構論」の三つのパートからなっている。まず「流通論」では、資本主義的市場を構成するファクターとして、商品・貨幣・資本概念を身につける。また「生産論」では、資本主義的生産過程に焦点を当ててそのメカニズムを探究する。最後に「機構論」では、資本主義経済における価格機構と市場組織の機能・役割について学習する。				
具体的な到達目標					
目標 1	資本主義分析に必要な理論的知識を身につける。				
目標 2	資本主義を駆動させるメカニズムを理解する。				
目標 3	資本主義経済の全体的な仕組みを把握する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに				
2	経済原論 — 序論				
3	商品 (1) — 商品の 2 要因				
4	商品 (2) — 価値形態				
5	貨幣 (1) — 価値尺度・流通手段				
6	貨幣 (2) — 蓄蔵手段・信用売買				
7	資本 — 資本の概念・資本の変容・資本主義的市場のシステム				
8	労働 (1) — 労働過程・協業と分業				
9	労働 (2) — 資本のもとでの労働過程・賃金制度				
10	生産 — 社会的再生産・生活物資と総労働量・搾取				
11	蓄積 — 資本蓄積・労働市場				
12	価格機構 — 利潤率の二重構造・生産価格・複数生産条件の処理				
13	市場組織 (1) — 産業資本・銀行業資本				
14	市場組織 (2) — 商業資本・株式資本				
15	まとめ				
アクティブラーニング	授業中の小テストやQ&A、講読、演習課題を実施し、授業内容についての理解を深めてもらいます。				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	教科書の次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をチェックしておく。(15時間)			
	事後学習	講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。(20時間)			
教科書	『これからの経済原論』(2019)さくら原論研究会編, ばる出版。				
参考書					
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法				割合(%)
	・小テスト				30
				・学期末試験	70
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
初級マクロ経済学 ( Introduction to Macroeconomics )					経済学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 3	小 野 宏 E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710
授業の概要	はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学、特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し、専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得することを目標とします。また、現実の経済問題について論理的に考える力をつけることをねらいとします。				
具体的な到達目標					
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。				
目標2	乗数効果を説明できる。				
目標3	財・サービス市場における需要と供給を説明できる。				
目標4	資産(貨幣)市場における需要と供給を説明できる。				
目標5	経済モデルに基づき、財政金融政策の効果について説明できる。				
授業の内容					
1	マクロ経済学とは				
2	マクロ経済学のとらえ方(1) 貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果				
3	マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは				
4	マクロ経済における需要と供給				
5	財・サービス市場: 有効需要と乗数メカニズム				
6	資産(貨幣)市場(1) 貨幣供給と信用乗数				
7	資産(貨幣)市場(2) 貨幣需要と利子率				
8	まとめ(1)				
9	財政政策の基本構造(1) 乗数				
10	財政政策の基本構造(2) 公債の負担の問題				
11	財政・金融政策とマクロ経済: 政策目標・政策手段と貿易問題				
12	財政・金融政策のメカニズム(1) 金融政策と有効需要				
13	財政・金融政策のメカニズム(2) 財政政策とクラウディング・アウト効果				
14	財政・金融政策のメカニズム(3) IS-LM分析と財政・金融政策				
15	まとめ(2)				
アクティブラーニング	学生の理解を確認するため、講義の途中で定期的クイズを出す。				その他の授業の工夫 各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書の内容を確認すること(7h)。マクロ経済学の考え方を意識しながら日本経済新聞を読むこと(7h)。			
	事後学修	講義を基にした教科書、小テストの振り返り(15h)。			
教科書	「マクロ経済学 第2版」伊藤元重著(日本評論社)				
参考書	『マクロ経済学・入門 第5版』福田慎一 照山博司著(有斐閣アルマ), 『マンキュー マクロ経済学 入門篇 第4版』N.G. マンキュー著(東洋経済新報社), など。				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	期末レポート			60	
小テスト			40		
注意事項	詳細な注意事項等は、第1回目の講義で説明します。				
備考	連絡等にMoodleを活用するので定期的に確認してください。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
中級ミクロ経済学 ( Intermediate Microeconomics )					ミクロ経済学 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	4	2, 3, 4	前期	月 3 火 3	村 山 悠 E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp 内線 7716
授業の概要	この講義の目的は、経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について、中級レベルの内容を理解することである。主に、家計の消費行動、企業の生産の決定、市場と均衡、独占などの不完全競争市場について学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標 1	経済学検定試験EREレベルの問題を解けるようになる。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ミクロ経済学とは何か? ミクロ経済学で使う数学について	16	生産の決定 (4)		
2	需要と供給 (1)	17	市場と均衡 (1)		
3	需要と供給 (2)	18	市場と均衡 (2)		
4	消費の理論 (1)	19	市場と均衡 (3)		
5	消費の理論 (2)	20	市場と均衡 (4)		
6	消費の理論 (3)	21	市場と均衡 (5)		
7	消費理論の応用 (1)	22	独占 (1)		
8	消費理論の応用 (2)	23	独占 (2)		
9	消費理論の応用 (3)	24	独占 (3)		
10	企業と費用 (1)	25	寡占(複占):クールノー・モデル (1)		
11	企業と費用 (2)	26	寡占(複占):クールノー・モデル (2)		
12	企業と費用 (3)	27	寡占(複占):クールノー・モデル (3)		
13	生産の決定 (1)	28	寡占(複占):シュタッケルベルグ・モデル (1)		
14	生産の決定 (2)	29	寡占(複占):シュタッケルベルグ・モデル (2)		
15	生産の決定 (3)	30	寡占(複占):シュタッケルベルグ・モデル (3)		
アクティブ ラーニング	小テストによる自己評価			その他の 授業の工夫	Moodleの活用
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義資料を読むなどの予習(30h)			
	事後学修	小テスト・講義内容などの復習(30h)			
教科書	教科書は指定しない。講義資料を使う。				
参考書	講義中に紹介する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	小レポート			70	
	期末レポート			30	
注意事項	高校レベルの数学, 特に微分をできるようにしておくこと。				
備 考					
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる 実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
中級マクロ経済学 ( Intermediate Macroeconomics )					マクロ経済学 I・II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	4	2, 3, 4	後期	火 3 木 4	宇野 真人 E-mail munoo@oita-u.ac.jp 内線 7676
授業の概要	経済活動の中で重要なキーワードがある。それは所得・利子率・為替レートだ。それらは相互に影響し合っている。その関係を理解してもらうことがねらいである。				
具体的な到達目標					
目標 1	公務員試験や経済学検定試験など各種試験レベルの問題を解く力をつけることが目標です。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス	16	中間		
2	GDPの成り立ち	17	国際収支について		
3	総需要と総供給(1)	18	変動為替相場制と固定為替相場制		
4	乗数分析(1) - 政府支出乗数 - 投資乗数 - 貿易乗数	19	マンデルフレミングモデル		
5	乗数分析(2) - 均衡財政乗数 - 租税乗数	20	マンデルフレミングモデルと財政金融政策の効果		
6	投資と利子率	21	総需要総供給分析		
7	IS曲線の成り立ちと意味	22	総需要曲線の導出		
8	実質利子率と名目利子率	23	総供給曲線の導出		
9	貨幣の需要と供給と利子率の決まり方	24	政策と物価変動		
10	貨幣需要	25	消費関数の理論(1)		
11	貨幣供給	26	消費関数の理論(2)		
12	金融政策と利子率	27	消費関数の理論(3)		
13	LM曲線の成り立ちと意味	28	産業連関分析(1) 基礎		
14	IS-LM分析と財政政策が所得と利子率に与える効果	29	産業連関分析(2) 基礎		
15	IS-LM分析と金融政策が所得と利子率に与える効果	30	産業連関分析(3) 活用		
アクティブ ラーニング	講義終わりに10分程度の小テストを実施し理解度を高める工夫を行っている。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	本講義で配布する教科書以外にもマクロ経済学の本に触れておくと理解が早まります。講義前に2h			
	事後学修	小テストや教科書にある練習問題の習った箇所について繰り返し解く。講義後に2h			
教科書	開始時に配布 ※諸事情で配布については初回に間に合わないことがあります。				
参考書	ガイダンス時に提示				
評 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法		割合(%)	小テストは合計10回の予定 中間テストは持ち込み可で理解度を確認 します。	
	小テスト		30		
	中間テスト		30		
	期末テスト		40		
注意事項	4単位の講義で、週二回の講義があります。単位取得希望者は中間テストと期末試験は受験必須です。				
備考	※オンラインで実施する場合は試験の実施形態などが異なりますので、初回講義の際に詳細を説明します。				
リン ク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に 関わる実 務経験者 実務経 験を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
応用ミクロ・マクロ経済学セミナー ( Microeconomics and Macroeconomics study )					マクロ経済学セミナー ミクロ経済学セミナー
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	火5	林 勇 貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705
授業の概要	ミクロ・マクロ経済学の練習問題を解くことにより、ミクロ・マクロ経済学の習熟度を高めることをねらいとする。				
具体的な到達目標					
目標1	経済学検定試験EREに出題される問題を解けるようになる。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	消費者行動(1)				
2	消費者行動(2)				
3	消費者行動(3)				
4	企業行動(1)				
5	企業行動(2)				
6	企業行動(3)				
7	市場均衡分析(1)				
8	市場均衡分析(2)				
9	財市場分析				
10	乗数				
11	IS曲線				
12	LM曲線				
13	IS-LM分析				
14	総需要総供給分析				
15	経済成長理論				
アクティブ ラーニング	練習問題・小テストを解く				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の目 安	準備学修	ミクロ・マクロ経済学の復習(15h)			
	事後学修	練習問題の復習(30h)			
教科書	教科書は初回授業で指定する。				
参考書	『経済学検定試験 ERE問題集』経済法令研究会				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び の の	評価方法				割合(%)
	小テスト				20
	期末試験				30
経済学検定試験ERE				50	
注意事項	7月に行われる経済学検定試験EREミクロ・マクロを必ず受験してもらいます。				
備 考	Moodleを活用する。				
リン ク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
計量経済学 (Econometrics)					計量経済学
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	木2	下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683
授業の概要	計量経済学の大きな役割は、実際に観察される経済現象・事象からのフィードバックを通じて経済理論や経済の現状を検証し、理論の適合性や政策の実施やその効果を判断することです。したがって、講義では、経済事象の数値データを収集し、それらを解析することからスタートし、経済理論の仮説検証を行う方法について勉強します。				
具体的な到達目標					
目標1	分析の対象となるデータの様々な特徴や性質、データ間の関係を調べることができる。				
目標2	線形回帰モデルの特徴を説明できる。				
目標3	エクセル等を用いて、線型回帰モデルを使って簡単なマクロ経済モデルの検証ができる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	統計学から・・・記述統計と確率統計				
2	統計学から・・・標本分布と仮説検定				
3	計量経済学の位置付け				
4	時系列データについて				
5	経済学における時系列データ処理				
6	統計処理としてのエクセルの利用方法 1				
7	統計処理としてのエクセルの利用方法 2				
8	最小2乗法の基礎 1				
9	最小2乗法の基礎 2				
10	単回帰分析の基礎 1				
11	単回帰分析の基礎 2				
12	回帰分析の演習 1				
13	回帰分析の演習 2				
14	マクロ理論からの例を推計				
15	まとめ				
アクティブラーニング	学生の理解を確認するため、定期的に課題の提出を求める				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書、配付資料や参考文献等を用いて予習する(30h)			
	事後学修	講義内容をノート、教科書、配付資料等を用いて復習する(15h)			
教科書	『入門 計量経済学』山本拓・竹内明香				
参考書	『計量経済学』：山本拓 『初歩からの計量経済学』：白砂堤津耶 『計量経済学』：森棟公夫 『計量経済学15講』：小巻泰之・山澤成康				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法				割合(%)
	定期試験				70
宿題・レポート等の提出物				30	
注意事項					
備考	関連科目：統計学、マクロ経済学など				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済数学 ( Mathematics for Economics )					経済数学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	水 2	中 本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授業の概要	経済理論の理解や経済分析には数学が必要不可欠である。本講義では経済学を学ぶ上で必要となる入門的な数学(主に微分積分、線形代数)について、多くの練習問題や小テストを解いて数学スキルの修得し、経済分析とのつながりを理解することで、経済学を学ぶための大きな一歩を踏み出すことを目的とする。				
具体的な到達目標					
目標 1	経済理論の理解や経済分析に必要なとなる入門的な数学スキルを修得する。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	関数				
3	均衡分析				
4	指数・対数				
5	数列				
6	導関数				
7	1変数の微分				
8	中間試験				
9	多変数の微分				
10	偏微分				
11	全微分				
12	最適化				
13	等式制約のもとでの最適化				
14	ベクトルと行列				
15	行列演算				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20h)			
教科書	教科書を指定しない				
参考書	A. C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎〈上〉第4版』彩流社、2020年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト				30
	中間試験				30
期末試験				40	小テスト、中間試験、期末試験から総合的に評価する。
注意事項					
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に関 わる実務経 験者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済学史 ( History of Economics )					経済学史 I・II, 近代経済学史
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 3	金子 創 E-mail skaneko@oita-u.ac.jp 内線 7701
授業の概要	現代経済学における基礎的な枠組みの成り立ちを概観する。本科目では、現代にいたるまでの理論上の試行錯誤を解き起こすことで、とりわけ基本的な価格理論の表現の基礎にある思考様式について説明する。また、そのような観点から重要であろういくつかの学説・理論の間の関連についても整理する。				
具体的な到達目標					
目標1	経済学が歴史的にどのように展開してきたかを辿ることで、その考え方の基本についての理解を深める。				
目標2	その展開が多様であったことを把握することで、経済現象の多角的なとらえ方の素養を身につける。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス、経済学史とは				
2	方法論について				
3	前古典派経済思想				
4	スミスと古典派経済学の成立				
5	古典派の展開、リカードとマルサス				
6	古典派の帰結とマルクス経済学				
7	新古典派、市場と競争				
8	ワルラスと一般均衡理論				
9	完全競争市場の理解(1)、クールノーと独占・複占理論				
10	完全競争市場の理解(2)、ジェヴォンズと交換理論				
11	完全競争市場の理解(3)、パレートと厚生基準				
12	市場経済と計画経済				
13	情報とインセンティブ				
14	市場以外の配分原理の可能性とその評価				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・授業内で議論の時間を設ける。 ・毎回課題(ディスカッションを含む)を設け、理解を確認する。			その他の 授業の工夫	・LMS(Moodle)を活用する。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	配布資料の理解(15h)			
	事後学修	・復習(15h) ・課題(15h)			
教科書	・教科書は指定しない。 ・配布資料を用いる。				
参考書	・根岸隆『経済学史入門』改訂版、放送大学教育振興会、2001年。ISBN978-4595834110				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験			80	
課題提出			20		
注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
統計学 ( Statistics )					統計学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	金 2	中本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授業の概要	統計学は「科学の文法である」と表現されるように、今日の科学において重要な役割を果たしている。また、私たちの身の回りにも統計学が関わっている物事(例えば、生命保険料の計算、選挙結果の速報、ワクチンの効果の判定など)で溢れている。本講義では、統計学の基礎を学ぶことで、様々な統計データが出るまでのプロセスを正しく理解し、現実社会における経済事象を適切に分析・解釈することを目的とする。				
具体的な到達目標					
目標 1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。				
目標 2	推定や仮説検定の基礎を修得する。				
目標 3	統計的手法を用いて、現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	度数分布とヒストグラム				
3	データの整理：平均、分散、標準偏差				
4	データの整理：相関係数				
5	確率				
6	確率変数 I				
7	確率変数 II				
8	中間試験				
9	確率分布				
10	母集団と標本				
11	区間推定 I				
12	区間推定 II				
13	仮説検定 I				
14	仮説検定 II				
15	回帰分析				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テスト、教科書の章末問題で復習する。(20h)			
教科書	教科書を指定しない				
参考書	小島寛之『統計学入門』ダイヤモンド社、2006年、森棟公夫ほか著『統計学(改訂版)』有斐閣、2015年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	小テスト				30
	中間試験				30
期末試験				40	
注意事項	小テストや試験に平方根( $\sqrt{\quad}$ )の計算ができる電卓が必要です。試験では電卓機能を持つ携帯端末(スマートフォンなど)の使用は不可とします。				
備 考					
リン ク	統計WEB統計学の時間(下記URL)を準備学修、事後学修、試験勉強に活用すると良い。				
	URL	<a href="https://bellcurve.jp/statistics/course/">https://bellcurve.jp/statistics/course/</a>			
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に 関わる実務 経験者					
実務経 験を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済統計学 ( Economic Statistics )					統計学Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	後期	水 2	中 本 裕 哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677
授業の概要	国民経済計算(SNA : System of National Accounts)は経済活動を測定する国際的な体系である。本講義では国民経済計算(SNA)を中心に、それらの数値がどのような社会経済現象の実態を捉えているのか理解する。さらに、産業連関表の仕組みや産業連関モデルについて学習し、産業連関分析手法を修得する。				
具体的な到達目標					
目標1	国民経済計算体系の基礎を修得する。				
目標2	マクロ経済モデルを修得する。				
目標3	マクロ経済モデルに基づく経済分析と経済事象の考察ができる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	国民経済計算体系Ⅰ				
3	国民経済計算体系Ⅱ				
4	物価指数・数量指数Ⅰ				
5	物価指数・数量指数Ⅱ				
6	産業連関表Ⅰ				
7	産業連関表Ⅱ				
8	産業連関モデルⅠ				
9	産業連関モデルⅡ				
10	産業連関モデルⅢ				
11	産業連関モデルⅣ				
12	競争輸入型モデル				
13	接続産業連関表				
14	環境勘定Ⅰ				
15	環境勘定Ⅱ				
アクティブ ラーニング	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)			
	事後学修	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20h)			
教科書	特になし				
参考書	中島隆信ほか著『経済統計』東洋経済新報社、2000年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	小テスト、期末試験から総合的に評価する。
	小テスト			30	
期末試験			70		
注意事項	基礎的な行列演算は本講義で解説しますが、入門レベルの線形代数学の理解が必須です。				
備 考					
リン ク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済学国際セミナー ( International Seminar on the Global and Japanese Economy )					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 2	柴田茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	The aim of this course is to give students a series of basic knowledge about global economies.				
具体的な到達目標					
目標 1	Obtained basic knowledge regarding globalization				
目標 2	Become capable at evaluating economic policies in this domain.				
目標 3	Improved their ability to participate in discussions.				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	Introduction				
2	The concepts of global economy				
3	Selected case studies of global economies (article 1)				
4	Selected case studies of global economies (article 2)				
5	Selected case studies of global economies (article 3)				
6	Selected case studies of global economies (article 4)				
7	Global problems (article 5)				
8	Global problems (article 6)				
9	Global problems (article 7)				
10	Global problems (article 8)				
11	Global problems (article 9)				
12	The relationship between Japan and global economy (article 10)				
13	The relationship between Japan and global economy (article 11)				
14	The relationship between Japan and global economy (article 12)				
15	Conclusion				
アクティブ ラーニング	Students need to read assignments before coming to class.				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	Read the appropriate material before coming to class(15h)			
	事後学修	Homeworks to cover this class(15h)			
教科書	To be provided by lecturer				
参考書	To be provided by lecturer				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	presentations			70	
reports			30		
注意事項	This course will consist of lectures, discussions and presentations.				
備 考	この授業は留学生が参加する可能性があり、すべて英語で実施します。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
国際貿易論 ( International Trade Theory )					国際貿易論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	火 3	柴 田 茂 紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715
授業の概要	1) 国際貿易の考え方や現状についての理解を深める。 2) 「現実」を考えるための「理論」を学ぶ。 3) 貿易という側面から、現在の「国際経済を見る眼」を養う。				
具体的な到達目標					
目標1	国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。				
目標2	国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。				
目標3	国際貿易に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	国際貿易論の範囲				
2	国際貿易論の基礎理論 (その1)				
3	国際貿易論の基礎理論 (その2)				
4	国際貿易の歴史と理論				
5	国際貿易の歴史と制度				
6	現在の国際貿易システム				
7	進展する地域間貿易				
8	中間のまとめとテスト				
9	国際収支とは何か				
10	国際収支から見えるもの				
11	為替レートと国際貿易との関係				
12	直接投資の考え方				
13	直接投資と国際貿易との関係				
14	事例紹介				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。 自習の際、利用して下さい。			その他の 授業の工夫	・欠席した場合は、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて自習する。
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(5h)			
	事後学修	授業で学んだことを活用し、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)			
教科書	配布物に基づいて授業を進める。				
参考書	必要に応じて指示する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	新型コロナの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。
	平常点 期末試験(またはレポート)			60 40	
注意事項	1) 欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する。				
備 考	オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
世界経済論 ( World Economy )					世界経済論	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員	
選択	2	2, 3, 4	後期	火 3	柴田茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715	
授業の概要	1) 世界経済を理解する上での基礎理論を学ぶ(理論分析)。 2) 世界経済の構造や現状についての理解を深める(現状分析)。 3) 幅広い観点から「世界経済を見る眼」を養う(多角分析)。					
具体的な到達目標						
目標1	世界経済の展開を理解する。					
目標2	近年の世界経済の特徴を理解する。					
目標3	世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	世界経済論の分析対象					
2	グローバル化の特色と変化					
3	技術革新とグローバル化					
4	情報化とグローバル化					
5	「コーヒー」から考えるグローバル化 1					
6	「コーヒー」から考えるグローバル化 2					
7	フェアトレードの課題と可能性					
8	「カネ」の移動から考えるグローバル化					
9	為替レートの基礎理論 1					
10	為替レートの基礎理論 2					
11	国際経済統計の分析方法 1					
12	国際経済統計の分析方法 2					
13	「Tシャツ」から考えるグローバル化					
14	グローバル経済の事例紹介					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。 自習の際、利用して下さい。				その他の 授業の工夫	・欠席した場合は、オンライン学習システム(moodle)を通じて該当部分を自習することになります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(5h)				
	事後学修	授業で学んだことを活用し、オンライン学習システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)				
教科書	配布資料に基づいて授業を進める。					
参考書	授業を通じて紹介する。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	新型コロナウイルスの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。
	平常点				60	
期末試験(またはレポート)				40		
注意事項	1) 理由に関係なく、欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。 3) 平常点は、小テスト・中間テスト・レポートの点数で計算する。					
備考	・オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと。					
リンク						
	URL					
担当教員の 実務経験の有無						
教員の実務 経験						
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無						
教員以外 の指導に関 わる実務経 験者						
実務経験 をいかした 教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
開発経済論 ( Development Economics )					開発経済論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 4	木 村 雄 一 E-mail ykimura@oita-u. ac. jp 内線 7689
授業の概要	2019年にノーベル経済学賞を受賞した開発ミクロ経済学のスター研究者2人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、過去20年ほどに蓄積された最新の知見を学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標1	貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。				
目標2	2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	1章「もう一度考え直そう、もう一度」：貧困の罨と永続的貧困、マイクロデータと実験経済学				
2	2章「10億人が飢えている？」：栄養摂取の不足による貧困の罨は永続的貧困の原因になっているか？(1)				
3	2章「10億人が飢えている？」：栄養摂取の不足による貧困の罨は永続的貧困の原因になっているか？(2)				
4	4章「クラスで一番」(1) 子どもへの教育投資はどのように決まるか：教育のミクロ経済学				
5	4章「クラスで一番」(2) ドキュメンタリー『パーミヤンの少年』教育投資と資金制約				
6	4章「クラスで一番」(3)：教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？ Duflo スライド(1)				
7	4章「クラスで一番」(4)：教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？ Duflo スライド(2)				
8	ディスカッション				
9	女性の労働供給と社会的地位(1)：Robert Jensen QJE 2012				
10	女性の労働供給と社会的地位(2)：Robert Jensen QJE 2012				
11	女性の労働供給と社会的地位(3)：The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.				
12	5章「スダルのさんの大家族」(1)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
13	5章「スダルのさんの大家族」(2)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
14	5章「スダルのさんの大家族」(3)：出産選択と人口；子沢山が低所得の原因になっているか？				
15	ディスカッション				
アクティブラーニング	毎回コメント用紙を配布し、問いを提示するので、受講者は回答を記入する。「問い」は、各界の講義内容で、主要論点が何であったかを、各自再現して記述するというものが主となる。適宜、次回の講義でフィードバックする。			その他の授業の工夫	このほか、コメント用紙は、質問や、コメント(講義内の議論に関するコメント)を記入することができる。これも、次回の講義でフィードバックし、受講者による議論の発展を図る。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書は事前に読むことを推奨する。論文や雑誌記事(英語)で、事前配布のものは受講前に読む必要があります。(30h)			
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解。(15h)			
教科書	【教科書】アビジット・バナジー、エステル・デュフロ 2011『貧乏人の経済学：もう一度貧困を根っこから考える』みず書房。(Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs, Paper back / Kindle)				
参考書	The Economist “Indian schools: Now make sure they can study” (June 10th 2017). “How india fails its women?” (July 7th 2018) Robert Jensen 2012, “Do Labor Market Opportunities Affect Young Women’s Work and Family Decisions?” Quarterly Journal of Economics.				
評 方 成 価 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験			90	
	質問、コメントにボーナススコアが付与される			10	
注意事項					
備 考	マテリアルは全て pdf を Moodle で配布する。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
アジア経済発展論 ( Economic Development in Asia )					アジア経済発展論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	後期	金 4	木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	世界に豊かな地域と貧しい地域があるのは何故か、という大問題に対する探求は、この10年ほど、伝統的な経済学の範疇(成長理論と実証、貿易・産業立地の理論)を飛び越え、政治学、経済史、文化形成など、社会科学のあらゆる分野・トピックにまたがる「制度分析」として大きな発展を見せている。制度分析の最新の知見を見渡すことで、現在の先進国が16-19世紀に現在の先進国が辿った制度移行プロセスによって経済成長を達成できた理由、サブサハラ・アフリカや北朝鮮、西アジアなど、現在の貧困地域が貧困である理由について探求する。				
具体的な到達目標					
目標1	経済発展と政治制度・経済制度、政治体制との関係、制度形成や制度が変化するメカニズムについて、論点を把握すること。				
目標2	明確な問題意識を持ち、論理的に考えられるようになること。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	経済的繁栄はどのように起きたか? 1) A-R 2012 Ch. 3				
3	経済的繁栄はどのように起きたか? 2) A-R 2012 Ch. 3				
4	政治体制と経済制度が、なぜ成長と停滞を決めるのか: 韓国と北朝鮮				
5	小さな差異と決定的な分岐点 1) A-R 2012 Ch. 4				
6	小さな差異と決定的な分岐点 2) A-R 2012 Ch. 4				
7	資源の畧と政治体制形成: ナイジェリア (白戸 2014)				
8	資源の畧と政治体制形成: マリ、アルジェリア、コンゴ (白戸 2014, 吉田 2020)				
9	政治体制形成の分岐: コンゴとボツワナ (A-R 2012)				
10	計量経済学の簡便な解説 (次の回の実証研究を見るため)				
11	ヨーロッパとアフリカの制度形成と産業革命の因果関係 1) 実証研究 AJR 2005				
12	ヨーロッパとアフリカの制度形成と産業革命の因果関係 2) 実証研究 AJR 2005				
13	豊かな民主国家と貧しい崩壊国家の差がどのように起きたか: 制度形成の分岐				
14	なぜアフリカは貧しいか?				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	参加者は、毎回 Moodle 経由でコメント・質問をする。次回の講義でフィードバックがある。論点を発見し、議論を通じて理解の共有、論点整理に役立てる。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	教科書は事前に読むことを推奨する。事前配布の論文(英語)は受講前に読むことが必要です。(30h)			
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解。(15h)			
教科書	Acemoglu and Robinson 2012. Why Nations Fail? The Origins of Power, Prosperity, and Poverty. New York : Crown Publishers. (鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか: 権力・繁栄・貧困の起源』.)				
参考書	[外部からの介入と国家秩序崩壊] 吉田淳 2020. アフリカ経済の真実 - 資源開発と紛争の論理. ちくま新書. Nathan Nunn 2008. Long-term Effects of Africa's Slave Trades. "Quarterly Journal of Economics, History of West Africa - Wikipedia."				
評方成 価法績 割及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験			90	
	コメント・質問にボーナススコアが付与される			10	
注意事項	(参考書つづき) [国家・政治体制形成] North, Wallis and Weingust 2009. Violence and Social Orders. Cambridge University Press. (『暴力と社会秩序: 制度の歴史学のために』)				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
EUの政治経済 (The Politics and Economics of the EU)					EUの政治経済
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	木3	デイ スティーブソン(経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The goal of this module is to provide learners with: an in-depth understanding of the historical and contemporary development of the European Union, its key institutions, a selection of EU policies, and the process and impact of Brexit. At a time when the EU is facing multiple challenges, within and beyond its borders, this class will also seek to uncover the reasons behind these challenges.				
具体的な到達目標					
目標1	Build up a knowledge and understanding of the EU				
目標2	Facilitate an ability to critically discuss and evaluate why nations choose to integrate				
目標3	Understand why the EU is facing a myriad of challenges and how it is managing them				
目標4	Understand and evaluate the Brexit process				
目標5					
授業の内容					
1	Introductory overview				
2	Global issues beyond the borders of the EU				
3	What is the EU? Political dynamics				
4	What is the EU? Legal dynamics				
5	Historical background - key events prior to WWII				
6	Historical background - key events post - 1945				
7	The integration process - from an FTA to a Common Market				
8	The integration process - is the EU heading towards political union?				
9	Explaining the EU integration process via theory				
10	EU citizenship - thinking about identity				
11	EU citizenship - the significance of common symbols and common values				
12	European parliamentary elections since 1979				
13	Brexit. Thinking about the UK's historical relationship with the EU				
14	Brexit. Remembering the referendum campaign and result				
15	EU-UK relations post 2021				
アクティブ ラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include : quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.			その他の 授業の工夫	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと 内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today ; overview of class ; impressions; issues you wondered about
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	(30 hours) - Please review preparatory materials prior to the class. This will include reading newspaper/magazine articles and listening to MP3 files in order to build up your background knowledge of European history and EU affairs.			
	事後学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Re-Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.			
教科書	For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), The European Union: a very short introduction, (4th edition) Oxford : Oxford University Press. EU[第4版]: 欧州統合の現在 一創元社 2020				
参考書	EUとは何か [第3版] 一国家ではない未来の形 (現代選書) (日本語) 単行本 -2019/9/30 中村 民雄(著) Additional material will be provided in class				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	Exam			60	
Class-based exercises			40		
注意事項	The determination to study the European Union (EU) and a willingness to participate in classroom based activities/discussion in English. A desire to learn about politics.				
備 考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
グローバル化と政治経済 ( The Politics and Economics of Globalization )					グローバル化と政治経済
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	後期	木3	デイ スティーブン (経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676
授業の概要	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of global issues and globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism? This leads us to ask an important question : Is globalization being superseded by de-globalization?				
具体的な到達目標					
目標1	Develop a knowledge and awareness of global issues				
目標2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion				
目標3	Evaluate and dissect key issues surrounding the globalization debate.				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	Introductory remarks				
2	The importance of developing critical thinking skills				
3	Critical thinking skills – case studies				
4	Remembering the Cold War				
5	Key political and economic developments 1945–1989				
6	Key political and economic developments post-1989				
7	Explaining political and economic change				
8	Revisiting the 2008 global financial crisis				
9	Hyperglobalists, sceptics and transformationalists				
10	Thinking about global governance				
11	Thinking about borders				
12	Thinking about identity				
13	Has everyone benefitted from Globalization?				
14	Do we have global solutions for global problems?				
15	Can we point to signs of de-globalization?				
アクティブ ラーニング	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include : quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.			その他の 授業の工夫	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと 内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today ; overview of class ; impressions ; issues you wondered about
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	(30 hours) – Please review the preparatory materials prior to the class. This will include reading, listening to MP3 files and the watching programmes about global politics. Seek out Japanese language material in order to build up your background knowledge of global events.			
	事後学修	(15 hours) – Update the class log. Check related documents. Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.			
教科書	Manfred B. Steger(2020), Globalization : A Very Short Introduction, (5th edition) Oxford : Oxford University Press マンフレッド・B・スティーガー(2010) (櫻井 公人(翻訳), 櫻井 純理(翻訳), 高嶋 正晴(翻訳) 新版 グローバリゼーション(〈1冊でわかる〉シリーズ)				
参考書	池尾愛子(2017) グローバリゼーションがわかる – 出版社 – 創成社 Additional material will be distributed during the course of the module				
評方成 価法績 割及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	
	Exam			60	
Class-based exercises			40		
注意事項	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities and discussion in English. A desire to learn about politics.				
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
現代国際関係論 ( Contemporary International Relations )					国際関係論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	集中	高 山 英 男 (非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	現代の国際関係は様々な難題が生じており、戦後維持されてきた国際秩序(パックス・アメリカーナ)が揺らいでいるかのようです。冷戦終結後にアメリカの一極的覇権体制が生まれたと言われました。しかし、今日、様々な勢力の挑戦を受けて、覇権体制が動揺しています。アメリカが主導してきた国際秩序に対して、ロシアや中国が挑戦しています。このような世界をどのような視点から見るかについてまず検討し、それから、今日の世界の主要な問題について検討します。				
具体的な到達目標					
目標 1	国際関係の理論については、現在の国際関係を理解するための3つのアプローチについて理解して、それを使って世界を見直す。				
目標 2	国際関係を構造的に理解する。				
目標 3	現代の国際政治の主要問題を理解する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	はじめに：講義の目標とねらいについて				
2	国際関係論のアプローチ (1) リアリズムとネオ・リアリズム				
3	国際関係論のアプローチ (2) リベラリズムとネオ・リベラリズム				
4	国際関係論のアプローチ (3) マルクス主義と世界システム論				
5	国際関係の構造 (1)				
6	国際関係の構造 (2)				
7	政治体制と国際関係				
8	国際連合の役割				
9	地域統合の未来 (1)				
10	地域統合の未来 (2)				
11	国連のP K O、人道的介入				
12	核兵器の廃絶				
13	グローバリゼーション (1)				
14	グローバリゼーション (2)				
15	まとめ：今日の世界情勢				
アクティブ ラーニング	より深く学ぶためには、テキストを読むだけでなく、参考書も読むようにして下さい。			その他の 授業の工夫	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の理解を深める。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストを読んで、わからないところを書き出し、自分で調べてみる。2時間。			
	事後学修	レジュメを読み返し、参考文献を調べて、ノートにまとめておく。2時間			
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年				
参考書	読みやすい新書などを講義の中で指示します。参考文献はとても重要です。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合 (%)	
	期末テスト			100	
注意事項	遅刻をしないように気をつけてください。				
備 考	日本や日本人を巻き込んだ大きな事件が起こっています。国際政治が身近なものになっています。ニュースやその背景に注目してください。				
リン ク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で指 導に関わる 実務経験者 の有無					
教員以外の指 導に関わる 実務経験者					
実務経 験を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
現代国際関係史 ( Contemporary International Political History )					国際関係論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	後期	集中	高山英男(非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	現在の国際政治の構造をアメリカの一極覇権構造としてとらえて、それがどのように形成され、維持されてきたかというを理解して、そのうえで、今後どのように覇権構造が展開するかについて、アメリカを中心に学習します。特に、冷戦以後の世界を10年ごとに輪切りにして、それぞれの時代の特徴を考えます。				
具体的な到達目標					
目標1	アメリカを中心にして、ヨーロッパや日本、ロシア、中国などの主要諸国が絡んでいく、世界の政治構造について、簡単な説明				
目標2	国際政治の歴史的理解を深める。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	はじめに：講義の目標とねらいについて				
2	アメリカ保守革命の世界戦略(1)				
3	アメリカ保守革命の世界戦略(2)				
4	アメリカ保守革命の世界戦略(3)				
5	アメリカ保守革命の世界戦略(4)				
6	冷戦終結後の新世界秩序の模索(1)				
7	冷戦終結後の新世界秩序の模索(2)				
8	冷戦終結後の新世界秩序の模索(3)				
9	冷戦終結後の新世界秩序の模索(4)				
10	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(1)				
11	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(2)				
12	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(3)				
13	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(4)				
14	現段階の世界政治の構造				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	より深く学ぶためには、テキストを読むだけではなく、参考書も読むようにして下さい。			その他の 授業の工夫	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の説明をする。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストを読んでくるとともに、わからないところを調べる。2時間。			
	事後学修	レジュメを読み直して、ノートと比較し、参考文献を読む。2時間。			
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年。				
参考書	そのつど講義中に指示します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末テスト			100	
注意事項	遅刻しないように。わからないことがあれば、質問用紙に書いてください。それだけでなく、自分で調べてみてください。				
備 考	アメリカは戦後世界をリードしてきた覇権国家です。大統領の戦略や具体的な政策が日本だけでなく、世界中の国々に影響を与えます。関心を持って勉強してください。				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済地理学 I ( Economic Geography I )					経済地理学 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	金 3	大 呂 興 平 E-mail ohro@oita-u.ac.jp 内線 6751
授業の概要	私たちの身の回りの地域では、マンションの建設ラッシュ、大型店の進出と駅前商店街の衰退、農業の耕作放棄といった、さまざまな現象・問題が起きています。それらは、なぜ今、その場所で起きているのでしょうか。この問いに向き合うことは、地域を深く理解し、問題に対する確かな指針を与えることにつながっています。本講義では、産業立地の基礎理論を学ぶとともに、実態を概観することで、こうした知的作業の素地を養うことをねらいとしています。				
具体的な到達目標					
目標 1	地域で起きている経済現象を、立地の理論や日本経済に関する基礎知識を用いて説明できるようになる。				
目標 2	日本の地域が抱える経済問題やそれに対する政策について、具体的な意見を持ち、説明できるようになる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	環境決定論と環境可能論				
3	農業立地の理論 事例) 輸送技術の革新と移動する産地				
4	工業立地の理論 事例) 製鉄所はなぜ大分に立地したのか?				
5	イノベーションと産業集積の理論 事例) 日本の「学習する地域」				
6	小売業・サービス業立地の理論 事例) 公共サービスをめぐる立地問題				
7	都市内部構造の理論 事例) モータリゼーションと郊外				
8	商業集積の理論と中心商店街問題 事例) 大分の中心商店街をめぐる取組み				
9	小売業の立地競争と立地選択 事例) コンビニチェーンの立地戦略				
10	経済的地域間格差の理論 事例) 県民所得格差と人口移動				
11	中枢管理機能の立地と都市システム 事例) 企業の支店配置				
12	世界都市の登場 事例) 東京の外資系企業				
13	クリエイティブクラスと都市 事例) ITベンチャー企業の立地				
14	地方財政の理論 事例) 公共事業の変遷				
15	総括				
アクティブラーニング	毎回の授業の終わりに、授業内容や質問、感想等をまとめて提出してもらいます。				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	列車の車窓から景色を眺めたり、街をぶらぶらと歩いたり、ふらりと旅に出たりする中で、目の前にある景色や出来事はなぜその場所で起きているのか、日常から意識的に考えてみるようにする(20h)。			
	事後学修	配付資料やノートから復習する(20h)。			
教科書	特に指定しません。				
参考書	山本健児『新版経済地理学入門』原書房				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	学期末テスト			70	
レポート提出			30		
注意事項	講義内容の充実を図るため、毎回の講義で内容への感想、意見等を提出して頂くことを予定しています。また、授業中の私語、遅刻学生には厳しく対処します。				
備考	地域に興味がある人であれば、特別な予備知識は必要としません。高校時代に地理を履修していない学生も歓迎します。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済地理学Ⅱ ( Economic Geography Ⅱ )					経済地理学Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	後期	金 3	大 呂 興 平 E-mail ohro@oita-u.ac.jp 内線 6751
授業の概要	私たちの住んでいる大分県は、日本の中では大都市から遠く離れた「地方」であり、また、多くの農村部を抱えています。本授業では、「経済地理学Ⅰ」で学んだエッセンスを交えつつ、戦後日本の地方や農村部がたどった変化とそのメカニズムを学ぶことで、日本の地方や農村部で起きている経済現象をより実態に即して理解することをねらいとしています。				
具体的な到達目標					
目標1	地方で起きている諸問題について、それに関わる複雑な要因を解きほぐし、問題の構図を正確に説明できるようになる。				
目標2	日本の地域が抱える経済問題やそれに対する政策について、具体的な意見や考えを持ち、説明できるようになる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	イントロダクション				
2	日本の産業構造の変化と地域				
3	地域経済発展の原動力としての移出産業				
4	移出産業と乗数効果				
5	高度経済成長と太平洋ベルト地帯の成立				
6	財政トランスファーと国土周辺部の社会				
7	産業立地の分散化と全総				
8	戦後の農業政策と農村の変貌				
9	地方財政の危機と市町村合併				
10	農業保護政策の後退と農村				
11	新産業都市・大分の50年				
12	一村一品運動と大分県の農山村の50年				
13	別府と湯布院の50年				
14	姫島と保戸島の50年				
15	総括				
アクティブラーニング	毎回の授業の終わりに、授業内容や質問、感想等をまとめて提出してもらいます。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	列車の車窓から景色を眺めたり、街をぶらぶらと歩いたり、ふらりと旅に出たりする中で、目の前にある景色や出来事はなぜその場所で起きているのか、日常から意識的に考えてみるようにする(20h)。			
	事後学修	配付資料やノートをもとに復習する(20h)。			
教科書	特に指定しません。				
参考書	授業で適宜紹介します。				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	学期末試験			70	
レポート提出			30		
注意事項	講義内容の充実を図るため、毎回の講義で内容への感想、意見等を提出して頂くことを予定しています。また、授業中の私語、遅刻学生には厳しく対処します。				
備考	地域に興味がある人であれば、特別な予備知識は必要としません。高校時代に地理を履修していない学生も歓迎します。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
労働経済論 I ( Labour Economics I )					労働経済論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2,3	前期	水 2	阿 部 誠 E-mail mabe@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	社会・経済は人が働くことで成り立っています。人が仕事を見つける労働市場はどういう特質をもち、賃金はどのように決まるか、また職場の問題など、人々の仕事全体を経済学的に分析することが労働経済論の課題です。その分析対象は「労働力商品」ですが、それは働く人間と切り離すことができないのであり、そこに経済学における労働経済論の特質があるといえます。この講義では、「仕事」をめぐる社会的な仕組みを分析するための基本的枠組みを理解できるようになるとともに、市場と制度・慣行の組み合わせでかたちづくられる「雇用システム」について議論したいと思います。こうした講義を通じて、社会で働くうえでの基本的仕組みも理解することをめざします。				
具体的な到達目標					
目標1	労働経済論の分析対象と経済学におけるその位置づけ、独自性について理解できます。				
目標2	労働市場に関する基礎理論を理解できます。				
目標3	労働をめぐる制度・政策・慣行について理解できます。				
目標4	社会での働くルールや仕組みを理解できます。				
目標5					
授業の内容					
1	労働経済論の課題				
2	人間労働と多様な働き方				
3	雇用労働の特質				
4	労働市場を把握するデータ				
5	労働供給の理論				
6	労働需要の理論				
7	労働市場の均衡と賃金決定				
8	賃金の硬直性				
9	失業の理論				
10	内部労働市場論				
11	人的資本理論				
12	労働市場の需給調整の仕組み				
13	労働をめぐる差別の理論				
14	労働組合と労使関係				
15	雇用をめぐるルール				
アクティブ ラーニング	授業は、受講生と対話しながら進める予定です。ミニレポートなど課題の提出を求めることがあります。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	基本的には指定する参考文献や新聞、雑誌の記事を読みマスメディアの情報の入手に努めてください。(30h)			
	事後学修	配布されたレジメを確認するとともに、参考文献を読んでください。(15h)			
教科書	テキストとしては特に指定しませんが、古郡頼子『働くことの経済学』有斐閣ブックスが講義の役に立つと思います。なお、講義のレジメを配布します。				
参考書	授業の中で指示します。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	定期試験の成績			100	
注意事項	ただ講義を聞くだけでなく、自分の頭で考えてください。				
備 考					
リ ン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
労働経済論Ⅱ (Labour EconomicsⅡ)					労働経済論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	後期	水2	阿部 誠 E-mail mabe@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	労働経済論は働くことを経済学の面から分析する学問です。人々の働き方に「市場メカニズム」がはたらいっていることは確かですが、同時にさまざまな制度・慣行、労働組合、政府の政策などが関わっています。したがって、実際の労働経済や労働問題を分析するうえでは、歴史的な変化をふまえるとともに、労働慣行や労働政策などのもつ意味を考えることはきわめて重要です。この講義では、最初に戦後日本の雇用構造がどのように変化してきたのかを考えます。そのうえで、日本の雇用・失業の特徴を明らかにし、「終身雇用」についても議論します。また、雇用の構造や働き方が今日いかに変化しているかを分析するとともに、その下で生じている雇用問題や労働問題について議論します。こうした講義を通じて、よりよい働き方やキャリアのあり方について考えます。				
具体的な到達目標					
目標1	日本の雇用構造がどのように変化してきたのか理解できます。				
目標2	日本の雇用システムとその変化について理解できます。				
目標3	今日の雇用問題とその背景について理解できます。				
目標4	日本の労働問題や労働政策の論点について理解できます。				
目標5	ディーセントワークやキャリアのあり方について考えることができます。				
授業の内容					
1	雇用、賃金、労働組合				
2	高度経済成長期の経済と雇用構造の変化				
3	高度成長の終焉と雇用問題				
4	経済の構造変化と雇用問題				
5	90年代の雇用変動と失業問題				
6	経済構造の変化と就業構造				
7	日本の長期雇用慣行				
8	雇用の流動化と日本的雇用慣行の変容				
9	就業形態の多様化と非正規従業員				
10	非正規雇用の労働問題				
11	フリーターと若年雇用問題				
12	雇用労働力の女性化とジェンダー問題と雇用機会均等政策				
13	地方圏における雇用の特徴				
14	高齢社会の就業問題				
15	現代の雇用政策の課題				
アクティブラーニング	授業は、受講生と対話しながら進める予定です。また、場合によっては、受講生に報告や課題の提出を求めるとあります。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	指定する参考文献や関連した新聞記事などを読み、情報の入手に努めることが重要です。また、現代日本の雇用の現状や労働問題について労働経済白書などを通じて調べてほしいと思います。(30h)			
	事後学修	配布されたレジメを確認するとともに、参考文献を読んでください。(15h)			
教科書	特に指定しません。講義内容についてレジメを配布します。				
参考書	授業の中で適宜参考文献をあげますが、全体を通じて、阿部誠『地域で暮らせる雇用』旬報社が参考になります。				
評価方法	評価方法			割合(%)	
	定期試験の成績			100	
注意事項	ただ講義を聞くだけでなく、自分の頭で考えてください。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の 実務 経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
労使関係論 ( Labor-Management Relations Theory )					労使関係論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	火 3	石 井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉=集団的労使関係で決まっていますが、近年、こうした集団的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。				
具体的な到達目標					
目標1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。				
目標2	労使関係の発展史を説明できる。				
目標3	労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	労使関係はどういう学問か				
2	日本の労使関係の特徴と形成(1)				
3	日本の労使関係の特徴と形成(2)				
4	賃金問題と労使関係				
5	集団的労使関係の変化と労働市場				
6	人事管理の変化と労使関係				
7	企業別組合と労使関係				
8	組織化の課題				
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合				
10	政府と労使関係				
11	国際化が変える労使関係とは				
12	デモ・ストライキで変える労働・生活条件(1)				
13	デモ・ストライキで変える労働・生活条件(2)				
14	就職活動と労使関係				
15	総括				
アクティブラーニング	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えていきます。			その他の授業の工夫	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間：1回1.5時間)。			
	事後学修	レポートの作成(22.5時間：1回1.5時間)。			
教科書	毎回レジュメを配布します。				
参考書	仁田道夫・中村圭介・野川忍(2021)『労働組合の基礎』日本評論社。浅見和彦(2021)『労使関係論とはなにか』旬報社。富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会(2021)『水俣に生きた労働者』明石書店。この他適宜、講義中に紹介します。				
評方法績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	課題レポート			30	
期末テスト			70		
注意事項	授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
西洋経済史 ( History of Occidental Economy )					西洋経済史 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	木 2	市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	先進的な工業化社会を生んだヨーロッパ地域を対象として、中世前期までのヨーロッパ経済社会の変容と展開をたどります。				
具体的な到達目標					
目標 1	中世盛期までのヨーロッパ経済史における基本構造を理解する。				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	経済史の方法				
2	本源的な社会				
3	古典古代地中海世界 1：植民活動				
4	古典古代地中海世界 2：アテネ「民主制」				
5	古典古代地中海世界 3：ローマ「共和制」				
6	民族移動期のゲルマン社会				
7	中世前期ヨーロッパの農村				
8	中世前期ヨーロッパの農村				
9	中世前期ヨーロッパの流通・交易				
10	中世前期ヨーロッパの流通・交易				
11	中世盛期ヨーロッパの農村				
12	中世盛期ヨーロッパの農村				
13	中世盛期ヨーロッパの流通・商業				
14	中世盛期ヨーロッパの流通・商業				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。 ・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき、質問・意見を用意しておくこと。(30h)			
	事後学修	時間中におこなった小テストの誤答箇所について、正解を確認して、ノートに整理しておくこと。(15h)			
教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。				
参考書					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	授業内小テスト			40	
学期末試験			60		
注意事項					
備 考	講義が一方通行にならないように、小テスト(A 5判)を行い、授業内でその内容の発表をってもらうとともに、答え合わせ・解説を行います。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本経済史 I ( Economic History of Japan I )					日本経済史 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	集中	坂 江 渉 (非常勤講師) E-mail fzt03024@nifty.com 内線
授業の概要	<p>一般に歴史において経済が自立して動き出すのは近現代以降である。それ以前の社会では、経済の歴史はつねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連をもって展開した。とくに日本では在来の神祭り信仰と仏教が、現代と較べものにならないほど、人びとの生活に大きな影響を与えていた。それは時に民衆生活の物質的、精神的な拠り所となり、あるいは支配の道具として利用された。</p> <p>本講では、「人びとの生業・暮らしと信仰」「中央と地方の交通」「対外関係と経済・物流」「国家権力と神仏政策」という視点に留意して、古代から近世の歴史を概観する。</p>				
具体的な到達目標					
目標1	前近代社会の経済の歴史は、つねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連性をもっていたことを理解できること。				
目標2	人びとの経済生活と宗教文化の関係を基軸にした前近代の日本の歴史の展開を、自分自身の言葉で説明できるようになること。				
目標3	外国人との国際交流の場において、文化の相互理解をめぐる円滑なコミュニケーションができるようになること。				
目標4	歴史を学んで単に知識を増やすだけでなく、つねに現在社会のあり方を見つめ直す能力を得られるようになること。				
目標5					
授業の内容					
1	序論ガイダンス「日本経済史 I で何を学ぶのか」				
2	前近代の生業と暮らし① (多産多死型社会の現実)				
3	前近代の生業と暮らし② (多産多死型社会の現実)				
4	婚姻・出産と神祭りの共同体				
5	古代国家と記紀神話				
6	大陸からの文物受容と初期仏教				
7	律令制下の疫病をめぐる社会習俗				
8	仏教の普及と社会的弱者の救済				
9	神仏政策の転換① - 上からの神仏習合 -				
10	神仏政策の転換② - 御霊会と天神信仰 -				
11	中世荘園制と寺社勢力				
12	中世寺社勢力と朝廷・武家・民衆との関係				
13	中世の終焉と経済・流通				
14	江戸幕府の仏教統制と「家仏教」の成立				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	講義の節目となる授業後に、小レポート等を課し、感想・疑問点などを書いてもらう。その内容を次回の講義でフィードバックして双方向性を高める。また誤字、脱字等を指摘し、受講生の文章表現能力の向上をはかる。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	あらかじめ配布する資料を読んで予習し、質問や意見を用意しておくこと(約30分)。			
	事後学修	講義で習った内容をネットなどで確認して内容を深めるとともに、つねに現代日本の社会のあり方に眼を向けるよう努力する(約30分)。			
教科書	なし				
参考書	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編(坂江渉監修)『播磨国風土記』の古代史』(神戸新聞総合出版センター、2021年。定価1800円)など。このほか適宜授業中に紹介する。				
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	講義の節目となる授業後に課す小レポートの評点			50	
			集中講義の最終日に課すレポートの評点		50
注意事項	つねに「歴史とは過去と現代との会話」という言葉を念頭において受講してください。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本経済史Ⅱ (Economic History of JapanⅡ)					日本経済史Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	後期	集中	森本幾子(非常勤講師) E-mail nisimukai@msd.biglobe.ne.jp 内線
授業の概要	日本の産業革命は、外国資本を排除したなかで企業勃興が進み、それに対する銀行の融資が行われたことに特徴がある。その後、日清戦争・日露戦争の過程で企業勃興が展開し、日本は、産業革命を成し遂げることができた。本講義では、近代日本経済のあゆみを、産業革命と日清戦争・日露戦争を通して考察することによって、日本の資本主義の特徴についての理解を深めることを目的とする。				
具体的な到達目標					
目標1	近代以降の日本経済を歴史的に考察する力を養う。				
目標2	国際社会における様々な問題や身近な経済活動について、自分なりの意見を持つことができるようになる。				
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	明治維新の変革と資本主義の形成				
2	世界市場への参入 一幕末の開港とその影響一				
3	外資排除のもとでの民業育成				
4	「征韓論の西郷」対「殖産論の大久保」				
5	外圧への商人的対応とその成功 一有力日本商人の資金蓄積一				
6	世界恐慌と松方デフレ				
7	日本銀行の設立過程				
8	資本制企業の勃興				
9	日清戦争開始への道				
10	戦争を支えた経済力				
11	日清戦後の企業勃興				
12	近代都市での人口漸増				
13	日露戦争開始への道				
14	累積する外債				
15	日露戦後処理 一近代日本史の分岐点一				
アクティブラーニング	双方向性を保つように、講義のなかで質疑応答を行うことがある。			その他の授業の工夫	必要に応じてPowerPointを使用。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	前回学修した内容を見直しておくこと(30分程度)			
	事後学修	毎回復習時間として30分ほど学修時間を確保すること。			
教科書	購入する必要はなし。講義内でプリントを配布する予定。				
参考書	石井寛治『日本の産業革命 日清・日露戦争から考える』(講談社学術文庫、2012年)、同『資本主義日本の歴史構造』(東京大学出版会、2015年)ほか。				
評方成績評価法及び評価の割合	評価方法			割合(%)	
	必要に応じて、課題コメントを提出する。			40	
			60		
注意事項	PowerPointや板書を写真撮影することは禁止。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の 実務 経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
日本経済論 ( Japanese Economy )					日本経済論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	集中	根岸裕孝(非常勤講師) E-mail 内線
授業の概要	戦後我が国の経済発展を実現させた「日本型経済システム」は、転換期を迎えつつある。グローバル化の伸展と産業経済の成熟化、人口減少に直面した日本経済は、多くの課題を抱えながら変化し続けている。日本経済が抱える問題点と課題について経済全般・財政・金融・貿易・産業・雇用・社会保障・地域・環境・エネルギー等の諸分野ごとにその背景を踏まえながら解説を行う。また授業では日本経済新聞の掲載記事解説や受講生の記事解説等の小レポート提出を通じて日本経済を読み解くリテラシーを高める取り組みを行う。				
具体的な到達目標					
目標1	日本経済が抱える構造的な問題点と課題について分野ごとにその背景を踏まえ理解する。				
目標2	各種統計データや政策資料、新聞記事を読み解きながら、その背景について理解し「経済を見る眼」を養うものとする。				
目標3	日本経済の諸問題の解決策についてどのような選択肢があり、それぞれにどのような課題があるのか理解を深める。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	瀬戸際に立つ課題先進国日本(バブル崩壊と長期停滞、デフレ)				
2	日本経済の歩み(戦前から戦後、高度成長、石油危機、低成長と制度疲労、バブルとその崩壊)				
3	日本の経済政策(その歴史とバブル崩壊後の経済政策の変遷、国際経済政策)				
4	財政赤字の拡大と再建への展望(財政政策の役割・財政の現状と再建)				
5	異次元緩和が長期化する金融政策(金融の役割と制度、日本銀行、非伝統的な金融緩和の効果とリスク、バブルと金融危機)				
6	創生を目指す地方経済(地方経済の現状と課題、地方創生の取り組み、地方行財政改革、地域に内在する活性化のための力)				
7	国際的な競争環境の変化と企業行動(世界貿易の構造変化とわが国製造業の競争力、産業内貿易の拡大、比較優位構造の変化と海外生産の増加)				
8	人材育成力の再構築が求められる労働市場(経済社会と労働市場の変化、働き方改革の進捗とコロナ禍、雇用形態と人材育成・生産性)				
9	国民生活の現状と格差問題(家計の消費、貯蓄等の現状、家計資産保有の現状と特徴、所得格差と貧困)				
10	少子高齢化時代の社会保障(少子高齢化と社会保障・年金・医療・介護、子育て支援、将来世代に配慮した社会保障へ)				
11	増加した所得収支黒字と急減したインバウンド(日本の国際収支の推移、為替レートと国際通貨体制、円安と日本経済)				
12	資源エネルギー戦略の再構築(エネルギー需給と原発依存、エネルギー政策の模索、再生可能エネルギー、資源・エネルギーをめぐる新しい動き)				
13	経済との関係が強まる環境問題(日本の環境問題への対応の歴史、循環型社会の構築と環境ビジネス、生物多様性の保全と経済、気候変動対策)				
14	パンデミックに襲われた世界経済の主要課題				
15	全体のまとめ				
アクティブ ラーニング	双方向性を保つために、積極的に質問して下さい。			その他の 授業の工夫	新聞記事の活用
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	テキストの該当箇所を読むこととする。(30h)			
	事後学修	テキストの該当箇所を振り返り復習するものとする。(15h)			
教科書	大森隆編『日本経済読本(第22版)』東洋経済新報社				
参考書					
評価成績 割合及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	
	試験			100	
注意事項	テキストを使用して授業を行うので、必ず授業開始前にテキストを購入し授業時に持参すること。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の 実務経験					
教員以外で 指導に関 わる実務 経験者の 有無					
教員以外 の指導に 関わる実 務経験者					
実務経 験を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
環境の経済学 ( Environmental Economics )					環境の経済学
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	集中	外川健一(非常勤講師) E-mail 内線
授業の概要	いわゆる環境問題をテーマに、自ら論理的に思索する姿勢を養い、日本の環境政策(とくに公害問題への対応、廃棄物政と資源政策、脱炭素とデジタル、SDGs)について自分の意見を述べる事が出来ることを目的に講義を行います。また受講者数にもよりますが、授業中にレポートを書くトレーニングや、グループディスカッションの時間も取りたいと思いますので、積極的に議論に参加する学生の受講を歓迎します。				
具体的な到達目標					
目標1	四大公害病の要因と課題について理解する。				
目標2	産業廃棄物問題の原因と対策について理解する。				
目標3	新しいIoT等のテクノロジーと環境問題も関係について理解する。				
目標4	SDGsについて理解し、課題を意識しながら行動できるようになる。				
目標5	グローバルな環境問題にはどのような課題があるか理解する。				
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	四大公害病、とくに水俣病問題				
3	四大公害病、とくにイタイイタイ病問題				
4	テキスト 第1章 環境問題の経済学的分析				
5	テキスト 第1章(続き)				
6	視聴覚教材鑑賞 化学物質問題				
7	テキスト 第2章 日本の循環型社会推進政策				
8	テキスト 第2章(続き)				
9	視聴覚教材鑑賞 豊島事件を中心に				
10	テキスト 第3章 日本の個別リサイクル法				
11	テキスト 第5章 日本の自動車リサイクル法の背景				
12	視聴覚教材鑑賞 E-Waste問題、電気自動車は環境にやさしいか?				
13	テキスト 第6章・第7章 自動車リサイクル法における拡大生産者責任について				
14	テキスト 第8章・第9章 シュレッダーダスト問題と自動車メーカーの対応				
15	SDGsに至る歴史的背景の、脱炭素に係る諸問題				
アクティブ ラーニング	集中講義ですので、講義期間中は毎日、担当講師のアドバイスの下、自分の頭で指定テキスト等を読み、講義を聴いて考えて書くトレーニングを行います。講義では視聴覚教材も積極的に取り入れて、わかりやすい説明を心がけます。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間 目安	準備学修	講義内容に沿った宿題を出します。毎日の課題をペースメーカーに約1週間の講義を楽しんでください。(30h)			
	事後学修	講義内容に沿った宿題を出します。毎日の課題をペースメーカーに約1週間の講義を楽しんでください。(15h)			
教科書	テキスト 外川健一『資源政策と環境政策』原書房、2017年。テストでも使用しますので、必ず購入してください。				
参考書	ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』(上、下)草思社、2000年(1997)、原田正純『水俣病』岩波新書、1972年、細田衛士『環境と経済の文明史』、NTT出版、2010年、堤未果『デジタル・ファシズム』2021年、杉山大志編著(2021)『SDGsの不都合な真実』宝島社等を取りあえず推薦しておきます。このほか随時講義中にご紹介します。				
評方成 価法績 割及評 合び価 の	評価方法			割合(%)	講義中および講義終了後に試験を実施します。なお、受講者と相談の上、随時の小試験・レポートの内容やグループ討論での参加・報告の状況をもとに、総合的に評価することもあります。
	試験			100	
注意事項	前回の授業で行われた議論の内容を整理し、自分にとってどのような知識が新たに得られたのかを確認してください。対面講義ではB5版のルーズリーフを講義中のレポートとして利用しますので、20枚ほど購入しておいてください。				
備考	講義では視聴覚教材も積極的に取り入れて、可能な限りグループ討論の時間等も取りたいと思います。積極的に議論に参加する学生の受講を歓迎します。なお、感染症の状況などに応じてオンライン講義に切り替えます。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に関 わる実務経 験者					
実務経 験を いかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済政策論 I ( Theory of Economic Policy I )					経済政策論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	月 2	高 見 博 之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674
授業の概要	現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。ミクロ経済学の考え方をを用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し、経済政策の基本的な考え方を展開します。				
具体的な到達目標					
目標 1	市場が成功する状況を説明できる。				
目標 2	市場が失敗する事例を説明できる。				
目標 3	外部性が存在する場合の問題点を説明できる。				
目標 4	公共財が存在する場合の問題点を説明できる。				
目標 5	不完全競争の場合の問題点を説明できる。				
授業の内容					
1	政府の役割とは				
2	経済政策の課題				
3	市場均衡 (1) : 消費者行動				
4	市場均衡 (2) : 企業行動				
5	市場均衡 (3) : 市場均衡				
6	市場均衡と厚生経済学の基本定理				
7	政府の市場介入のコスト (余剰分析)				
8	市場の失敗				
9	外部性 (1) : 私的解決策				
10	外部性 (2) : 公的解決策				
11	公共財 (1) : 公共財の最適供給				
12	公共財 (2) : リンダール・メカニズム				
13	独占と市場の失敗				
14	自然独占と価格設定				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。			その他の 授業の工夫	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)。			
	事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)			
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。				
参考書	講義中に適宜提示しますが、以下の2冊を挙げておきます。常木淳(2002)『公共経済学 第2版』, 新世社. 八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社.				
評 方 成 績 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	講義時等の小レポート			30	
	期末試験			70	
注意事項	板書により講義を進めます。				
備 考	本講義の分析手法は、専門基礎科目の初級ミクロ経済学程度の水準です。				
リン ク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
経済政策論Ⅱ ( Theory of Economic Policy Ⅱ )					経済政策論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	後期	月2	高見博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674
授業の概要	現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。主としてマクロ経済学の考え方をを用いて、経済政策の基本的な考え方を展開します。				
具体的な到達目標					
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。				
目標2	閉鎖経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。				
目標3	開放経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できる。				
目標4	短期・長期の視点で財政政策の効果を説明できる。				
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス：政府の役割				
2	マクロ経済政策の課題				
3	経済の安定（1）：45度線モデル				
4	経済の安定（2）：乗数				
5	経済の安定（3）：IS曲線				
6	経済の安定（4）：LM曲線				
7	経済の安定（5）：IS-LM分析				
8	公債（1）：政府の予算制約				
9	公債（2）：公債発行とIS-LMモデル				
10	公債（3）：公債の中立命題				
11	公債（4）：財政赤字の問題点				
12	開放経済				
13	経済成長（1）：新古典派成長モデル				
14	経済成長（2）：財政政策の効果				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。			その他の 授業の工夫	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)。			
	事後学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)			
教科書	教科書は設定しません。				
参考書	講義中に適宜提示しますが、以下の2点を挙げておきます。N. G. マンキュー(2017)『マンキューマクロ経済学Ⅰ 第4版』東洋経済新報社. 井堀利宏(2003)『経済政策』新世社.				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	期末試験			70	
	講義時等の小レポート			30	
注意事項	板書により講義を進めます。必要に応じプリントを配付します。				
備 考	本講義の難易度は、初級マクロ経済学の分析道具を用いた程度の水準です。				
リン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
社会政策 ( Social Policy )					社会政策論 I ・ II
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	1, 2, 3, 4	前期	金 3	石 井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。				
具体的な到達目標					
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。				
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。				
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	社会政策とはどういう学問か				
2	社会政策の方法(1)－経済学的手法				
3	社会政策の方法(2)－政治学的手法				
4	社会政策の方法(3)－社会学的手法				
5	社会政策の対象－仕事と生活の関係				
6	社会政策の研究史(1)－欧米編				
7	社会政策の研究史(2)－日本編				
8	社会政策の研究史(3)－東アジア編				
9	賃金・労働時間に関わる争点				
10	雇用問題に関わる争点				
11	労使関係・労働組合に関わる争点				
12	社会保障に関わる争点(1)－年金・医療・介護				
13	社会保障に関わる争点(2)－福祉・公的扶助				
14	ジェンダーに関わる争点				
15	総括				
アクティブラーニング	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えていきます。			その他の授業の工夫	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間：1回1.5時間)。			
	事後学修	レポート課題の作成(22.5時間：1回1.5時間)。			
教科書	特に指定しません。レジュメを講義で配布します。				
参考書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方で生きる若者たち』旬報社。 石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析－労働社会未来を拓くために－』法律文化社。 平澤克彦・中村艶子編(2021)『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。その他講義中に紹介していきます。				
評 方 成 価 法 績 制 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	授業レポート			30	
	期末テスト			70	
注意事項	予習が可能なように事前問題を毎回用意します。また、質問時間を適宜とりますので、遠慮なく質問してください。				
備 考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
セミナー「働くということと労働組合」 ( Work and Trade Union Seminar )					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	後期	水4	石井まこと・小山敬晴 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698
授業の概要	この授業は、寄附講義「働くということと労働組合」の応用科目として位置づけられ、労働現場で起きている実際の諸問題を事例をもとに、少人数のグループ・ディスカッション形式で解決策を考えながら、自身のライフプランを考える授業です。とくに、労働法の適用を免れるために、契約では個人事業主として扱われて働く人たち(料理配達人、ホテル支配人、俳優、音楽実演家、英語講師、ヨガ指導者、美容・理容業、コンビニ店長など)の労働問題を検討対象にします。労働問題を真剣に考えてみたい学生のみさんの受講を期待しています。				
具体的な到達目標					
目標1	労働問題の具体的内容を知ることができる。				
目標2	労働条件の維持・向上の仕組みを理解できる				
目標3	議論を通じて、適切な解決策を導き出すことができる。				
目標4	ワークルールを正しく理解している。				
目標5	ライフデザインを創造することができる。				
授業の内容					
1	イントロダクション：ライフデザインを考えよう①				
2	イントロダクション：ライフデザインを考えよう②				
3	名ばかり個人事業主とは				
4	労働組合の役割とは				
5	事例検討①就活(1)：事例紹介と討論				
6	就活(2)：解決に向けた取り組み方法				
7	事例検討②名ばかり個人事業主(1)：事例紹介と討論				
8	名ばかり個人事業主(2)：解決に向けた取り組み方法				
9	事例検討③名ばかり個人事業主(1)：事例紹介と討論				
10	名ばかり個人事業主(2)：解決に向けた取り組み方法				
11	実務家からの講義				
12	ワークルールが広まる労使関係にするために①グループ報告の作成(1)				
13	ワークルールが広まる労使関係にするために②グループ報告の作成(2)				
14	ワークルールが広まる労使関係にするために③グループ報告と評価				
15	総括討論				
アクティブラーニング	グループ・ディスカッションを積極的に活用し、議論が活発にできるようにしていきます。また、Slack(ビジネスアプリ)を活用し、教員・学生間のコミュニケーションを充実させていきます。			その他の授業の工夫	労働問題を抱えている当事者の方をゲストとして登場してもらい、解決策と一緒に考えます。自分が当事者になったと考えてもらえるように、授業を進めていきます。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	これまで受講してきた労働問題関係の授業の復習をすること。「働くということと労働組合」をはじめ、「社会政策」、「労使関係論」、「労働関係法Ⅰ」、「労働関係法Ⅱ」などレジュメおよびノートを使って、学習内容を振り返ってください。30時間			
	事後学修	授業で扱ったワークルールや事例について、他にどのような事例があるか調べてください。そのうえで、その事例の解決策を自分で考えて、次回報告できるようにしてください。15時間			
教科書	『ディスガイズド・エンプロイメントー名ばかり個人事業主』学習の友社				
参考書	授業内で適宜紹介します。とりあえず、高橋祐吉・鷲谷徹・赤堀正成・兵頭淳史編(2016)『図説 労働の論点』旬報社を挙げておきます。ワークルール検定に関連した書籍もお勧めです。				
評方成績評価法割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	授業内での課題への取り組み			50	
	プレゼンテーション			50	
注意事項	セミナー形式ですので、出席・参加意欲を重視しますので、欠席しがちな人は遠慮してください。受講生数は10名程度です。9月の後期ガイダンスにて受講者調整を行いますので、必ずガイダンスに出席してください。				
備考	現実進行形の労働問題を含めて、皆さんが就職後にも役立つ知識になるような授業にしていきたいと考えています。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
財政学 I ( Public Finance I )					財政理論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	2, 3, 4	前期	水 2	林 勇 貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705
授業の概要	公園などの公共財の供給、社会保障、景気対策など、政府や自治体は多くの活動を通して、私たちの生活を支え、望ましい社会を実現しています。しかし、近年、財政状況は厳しくなるとともに、高齢化社会にともなう年金問題や地域間格差など解決すべき問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めています。本講義では、様々な財政問題の①現状を把握し、②問題発生の原因を探り、③問題解決の糸口を考えていきます。				
具体的な到達目標					
目標 1	政府の役割を理解する。				
目標 2	財政問題の現状や発生メカニズムを理解する。				
目標 3	関連した新聞記事などの理解力を強化する。				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	イントロダクションー財政学とはー				
2	日本の財政状況を考える				
3	財政赤字の問題点(1)				
4	財政赤字の問題点(2)				
5	経済活動における財政の役割				
6	財政の役割ー資源配分機能とその効果ー				
7	政府支出の理論ー効率性ー				
8	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー(1)				
9	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー(2)				
10	政府支出の理論ー公共財の最適供給ー(3)				
11	政府の失敗を考える				
12	財政と経済安定ー経済安定化機能とその効果ー				
13	経済安定化のメカニズム(1)				
14	経済安定化のメカニズム(2)				
15	まとめ				
アクティブラーニング	講義資料の配布と板書を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言やアンケート、レポートを求める。また、授業終了後に質問を受け付ける。オンライン授業の場合は、Moodleに動画をアップロードするオンデマンド形式で行う。			その他の授業の工夫	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す(15h)。			
	事後学修	・レポートに取り組む(15h)。 ・理解できなかった点を明確にするため、復習する(15h)。			
教科書	特に指定なし				
参考書	林宜嗣・林亮輔・林勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社				
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法			割合(%)	
	学期末試験			80	
	授業内レポート			20	
注意事項	特になし				
備考	特になし				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外での指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
国際金融論 I ( International Finance I )					国際金融論 I
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4	前期	火2	小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
<p>授業の概要</p> <p>日銀が金融緩和するとなぜ円安になるのか。貿易収支は赤字だが、経常収支が黒字なのは何が要因なのか。こうした問題に答えられるように、この講義では、国際金融の基本である「国際収支」「為替レートの変動要因」「為替レートの見方」について</p>					
<p>具体的な到達目標</p> <p>国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動要因を理論に基づいて説明できるように能力を獲得することを目指します。</p> <p>目標1.....</p> <p>目標2.....</p> <p>目標3.....</p> <p>目標4.....</p> <p>目標5.....</p>					
<p>授業の内容</p> <p>1 国際金融論とはーガイダンス</p> <p>2 国際化とグローバル化</p> <p>3 国際収支の見方・使い方</p> <p>4 国際資本移動の基礎</p> <p>5 外国為替の基本① (外国為替のしくみ)</p> <p>6 外国為替の基本② (為替レートの見方)</p> <p>7 外国為替の基本③ (為替レートと貿易収支)</p> <p>8 外国為替の基本④ (通貨制度)</p> <p>9 為替レートの変動要因① (購買力平価)</p> <p>10 為替レートの変動要因② (購買力平価パスル)</p> <p>11 為替レートの変動要因③ (金利平価)</p> <p>12 為替レートの決定理論 (マネタリー・アプローチからアセット・アプローチへ)</p> <p>13 為替レートの決定理論 (ポートフォリオ・バランス・モデル)</p> <p>14 為替レートの決定理論 (期待と予想)</p> <p>15 まとめ</p>					
アクティブラーニング					その他の授業の工夫
<p>時間外学習の内容と時間の目安</p> <p>準備学習 事前にテキストをよく読んでおくこと(15h)。</p> <p>事後学習 知識の定着としての振り返りノート(30h)。</p>					
<p>教科書</p> <p>橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2019年 有斐閣</p>					
<p>参考書</p> <p>清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融 理論から実践まで』2016年 日本評論社その他講義時に紹介します。</p>					
<p>評価方法</p> <p>振り回りノート&amp;小テスト</p> <p>期末試験</p>					割合(%)
<p>評価成績評価法及び割合の</p>					50
<p>50</p>					
<p>注意事項</p> <p>遅刻や授業中の私語に対しては、厳しく対応します。普段から新聞、ニュース等のできるだけ金融・経済関連のトピックに触れるようにしましょう。授業の進行状況によって、内容を変更する場合があります。</p>					
<p>リンク</p> <p>URL</p>					
<p>担当教員の実務経験の有無</p> <p>○</p>					
<p>教員の 実務 経験</p> <p>エコノミスト、為替ストラテジスト</p>					
<p>教員以外で指導に関わる実務経験者の有無</p>					
<p>教員以外の指導に関わる実務経験者</p>					
<p>実務経験を 授業内容にいかした教育内容</p> <p>外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。</p>					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
国際金融論Ⅱ ( International Finance Ⅱ )					国際金融論Ⅱ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	火 2	小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713
授業の概要	金融、経済の国際化やグローバル化が進むにつれ、一国の経済行動が世界全体に影響を及ぼす機会が増えています。米国のサブプライム・ローン問題が、なぜ世界的な金融危機に発展したのか。また、米国が利上げするとなぜ新興国市場から資金が流出するのか。この講義では、「通貨危機」「国際通貨制度」「通貨統合問題」などを体系的に学び、国際金融についての理解を深めることがねらいです。				
具体的な到達目標					
目標1	国際金融Ⅰで学んだ基礎理論をベースに、メディアなどで取り上げられている国際金融問題を理解できるような能力を獲得する。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	為替変動と為替介入				
3	マンデル・フレミング効果				
4	マクロ経済政策の効果				
5	通貨危機発生のメカニズム				
6	通貨危機はなぜ伝播するのか				
7	通貨危機に対する通貨制度				
8	国際通貨制度				
9	基軸通貨としてのドル				
10	通貨の国際化とは				
11	ユーロの誕生				
12	通貨統合の便宜と費用				
13	通貨統合の考え方				
14	国際金融の新しい課題				
15	まとめ				
アクティブラーニング	授業の理解度を高めてもらうため、ビデオを鑑賞したり、小テストを実施します。				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	事前にテキストをよく読んでおくこと(15h)			
	事後学習	授業の理解度を高めるための振り返りノート(30h)			
教科書	橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2019年 有斐閣				
参考書	田中素香『ユーロ危機とギリシャ反乱』2016年 岩波新書				
評価法・成績評価割合及び評価の	評価方法				割合(%)
	振り返りノートおよび小テスト				50
	期末試験				50
注意事項	国際金融の基礎から応用を網羅的に学ぶため国際金融論Ⅰを受講していることが望ましいです。なお、近年の国際金融情勢のめまぐるしい変化に対応するためテキスト以外の資料も多用します。				
備考	遅刻や、他の学生に迷惑がかかるような授業中の私語に対して、厳しく対応します。使用するテキストの内容や授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>				
教員の実務経験	エコノミスト、為替ストラテジスト				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。				

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
証券論 ( An Introduction to Securities Market )					証券論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	前期	月2	金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	本講義の目的は、証券そのものや証券市場に関する基礎知識を身につけることにある。証券とは何か、株式や債券とは何か、またこれらの証券が発行・流通される証券市場とは何かについて学習する。				
具体的な到達目標					
目標1	証券市場の基礎から学習をスタートさせ、証券市場の全般的な仕組みを理解できるようにする。				
目標2	最終的には、日々変化している証券市場の現状を把握できるようにする。				
目標3	レポートや株式投資ゲームの報告書をつうじて株式市場についての分析能力を高める。				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス (証券とは何かや講義の進め方について)				
2	株式の基礎				
3	債券の基礎と株式投資ゲームについて				
4	理論株価と株価の決定要因				
5	株式市場の様々な指標				
6	株式の投資尺度				
7	上場株式の比較分析				
8	中間まとめ (株式投資ゲームについて確認を含む)				
9	ベンチャー企業と上場制度				
10	株式市場の実際その1				
11	株式市場の実際その2				
12	債券投資と利回り分析				
13	投資信託の仕組み				
14	投資信託と証券市場				
15	総まとめ				
アクティブ ラーニング	株式投資ゲームの報告書の作成、レポートの提出			その他の 授業の工夫	報告書を作成するためには、日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	日々の経済指標を確認しておく(10h)。			
	事後学修	配布資料を用いて復習する(20h)。			
教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。				
参考書	日本経済新聞社『やさしい株式投資』第2版 2017年。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法			割合(%)	
	株式投資ゲームの報告書			10	
	レポート			10	
	テスト			80	
注意事項	証券関連記事を読み、授業に参加すること。				
備 考	毎回、授業内容に関する質問アンケートと出席をとる。 小テストを行うことがある。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の実務 経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に関 わる実務経 験者					
実務経験 をいかした 教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
証券市場論 ( Securities Market )					証券市場論
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択	2	3, 4	後期	月 2	金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690
授業の概要	本講義の目的は、証券市場に関する知識をより深めていくことにある。前期の証券論の講義内容が総論であれば、この講義は各論にあたり、より専門的な内容を取り入れ、証券市場の理解をさらに深める。				
具体的な到達目標					
目標 1	証券市場の全体像を把握するとともに、国民経済における証券市場がどのような役割を果たしているのかがわかるようになる。				
目標 2	株式投資ゲームを実施することにより、日々変化する経済や証券市場の動きをキャッチし、理解できるようになる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス (株式投資ゲームについてを含む)				
2	ストックオプションと新株予約権				
3	株式公開 (IPO) について				
4	債券市場と格付け				
5	株式投資と行動経済学				
6	証券市場のプレイヤーその 1				
7	証券市場のプレイヤーその 2 (インサイダー取引についてを含む)				
8	中間まとめと株式投資ゲームの進捗状況について				
9	デリバティブの概念と意義				
10	オプション取引についてその 1				
11	オプション取引についてその 2				
12	先物取引についてその 1				
13	先物取引についてその 2				
14	スワップ取引について				
15	総まとめ				
アクティブラーニング	株式投資ゲームの報告書、レポートの提出			その他の授業の工夫	日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	日々の経済指標の確認(10h)			
	事後学修	配布資料を用いた復習(20h)			
教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。				
参考書	大村敬一・佐野雅司『証券論』2014年、有斐閣。				
評価法・成績割及評価の割合	評価方法			割合(%)	
	株式投資ゲームの報告書			10	
	レポート			10	
	テスト			80	
注意事項	証券論の受講が必要。				
備考	毎回アンケートと出席をとる。 小テストを行うことがある。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					